

令和3年7月吉日

習志野市サッカー協会
4種委員会 審判部

2021/2022 競技規則改正について

2021/2022 競技規則において、「ハンド」の反則の考え方が変更となります。(詳細は日本サッカー協会HPで確認してください)

- 手や腕にボールが当たったとしても、すべてが反則になる訳ではない。
- 競技者の手や腕の位置は、そのときの状況における体の動きに関連して判断する。
- ゴールキックにおいて「トリック」を用いて競技規則の裏をかき、チームメイトから意図的にパスされたボールをゴールキーパーが手で扱った場合はゴールキーパーは警告される。

具体的なハンドの反則の事象

- 手や腕をボールの方向に動かす(意図的にボールの進行を妨げる)
- 偶発的であっても、手や腕から相手チームのゴールに直接得点する。
- 偶発的であっても、ボールが自分の手や腕に触れた直後に相手競技者のゴールに得点する。

具体的なハンドの反則ではない事象

- 競技者の自然な動きによるボールに触れる。
- 顔などボールが当たるのを避けるためにボールに触れる。
- 競技者自身がプレーした直後で予期せぬ方向に動いたボールに触れる。
- 競技者のプレーにより予期しない方向からきたボールに触れる。(よけることができない、倒れて支えた手や腕に触れる)

最終的な判断はレフェリーが決めることとなります。

そのため、手や腕のプレーをする前の位置、動きを見極める必要があります。

「ハンド」があったか否かを先ずは見極め、そのときの状況によりの確な判断ができるよう心がけてください。